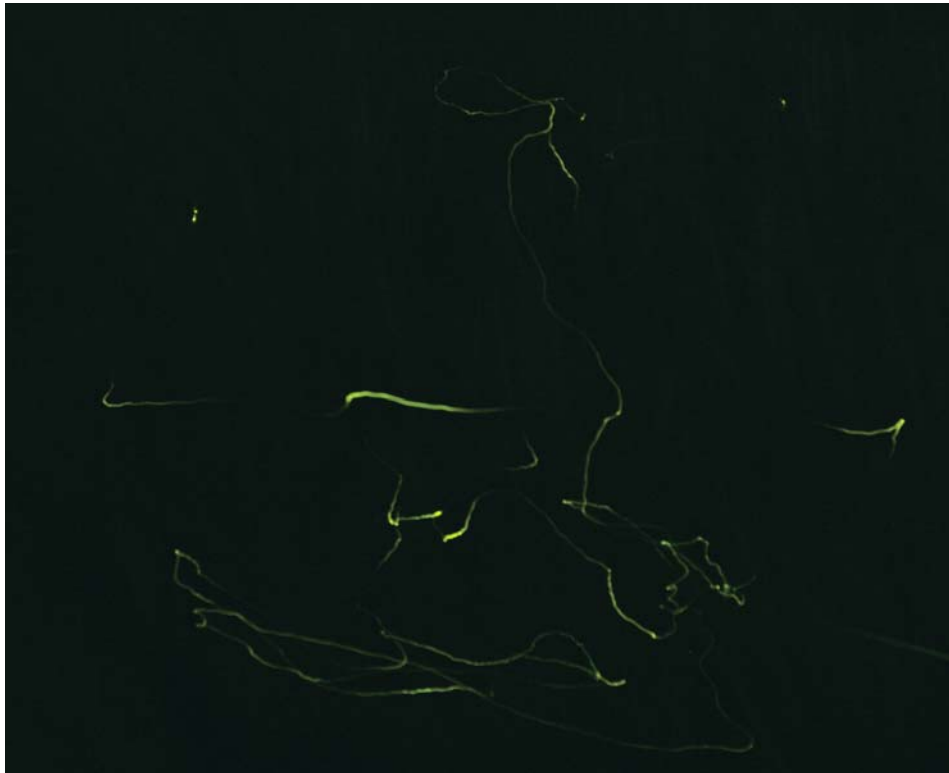


平成青木時報

2014年（平成26年）8月1日 第11号 発行：平成青木時報編集部 題字：三四六

今夏、村内に舞ったホタル

6月27日午後8時頃、編集部メンバーで青木村下奈良本にホタルを見に行った。多くのホタルが舞う姿は幻想的だった。村内には他にも沓掛の野生里芋群生地や田沢温泉、当郷の塩野入池から流れる小川でも見られたそうだ。



下奈良本に設置してある看板

下奈良区四ツ谷の地を整備している「和合倶楽部ほたるの会」の我山清二さんに話を聞いたところ、およそ5年前からこの場所の整備を始めた。草刈りをしていくくらいで自然にホタルの数が増えている。田んぼの用水路のため、雨で増水しても流されないためではないか、とのこと。昔はホタルが田んぼにたくさんいたが、今はあまり見られなくなったので、きれいな自然を残していきたいとお話いただいた。

また、「青木村自然を守る会」の沓掛忠人さんにも話を聞いた。当初はオオムラサキの保護活動をしてきたが、現在はホタルを守る活動にも力を入れているという。今年も小学3年生にホタルの授業を教え、6月下旬に沓掛温泉の野生里芋（石芋）群生地でホタル観賞会を開き、多くの子が参加したそうだ。

私たちが幼少の頃にはもともと多く見られたホタルだが、明らかに減っている。私たちがホタルを見に行ったりするとき、近所の方がお孫さんを連れて見に来ていた。次の世代に美しい自然を残していきたいと強く感じた。



沓掛温泉の野生里芋（石芋）群生地



当郷区塩野入池の土手

田沢温泉の看板

温泉地でのホタルは、観光面でもいい効果があるのではないかと。



青木時報を学ぶ

昭和 12 年 9 月 1 日 第 70 号より抜粋



軍人より
會員諸君へ
 『よろしく』と
 陸海軍人諸氏から本會及會長宛に暑中見舞や時報の禮狀が澤山來てゐます。他郷で見ると故郷の時報は、唯一の慰めであるに、會員諸君へもよろしく傳へてくれこのころです。から紙上を通じてお知らせします。

昭和になり、題字に青木三山の絵も入り、ポップなデザインになった。小さい記事だが、国外にいる軍人から、「遠方で故郷の時報が読めることが唯一の慰め」という礼狀がたくさん送られていて、青木出身の方の励みになっていったようだ。

青木人

本田トキさん(99歳)

村松の本田酒店のトキさん。24歳だった昭和14年(1939年)、小諸から本田昌平さんとの結婚で青木へ。本田酒店は寛政9年(1797年)に開業。日本酒「本泉」を醸造・販売していた。造り酒屋の手伝いとして杜氏さんの食事作りなど、忙しく働いたとのこと。

戦争中に国の企業整備により醸造をやめて、道具類もすべて抛出させられた。鍋や釜も何でも持っていかれたという。「酒作りはやめるしかなく、本当につらく悲しかったですが、ご先祖様に申し訳ないという一心で酒の販売だけは続けていこうと決心しました」と当時を振り返る。昭和16年(1941年)7月、夫の昌平さんは戦争へ。終戦から1年後、ニューギニアで病死したと通知が来た。できるだけ近くでお参りをと、昭和53年(1978年)、県ニューギニア会の慰霊巡礼に参加。88歳までに6回足を運んだという。千羽鶴をニューギニアに持っていき慰霊碑にかけた。今でも折り続け、年を取って自分は現地には行けなくなったが、毎回持って行ってもらってるそう。また、近所に具合の悪い人がいると、すぐに千羽鶴を作って贈っているという。また木彫りも趣味で上田の教室に通っているそうで、多くの作品が並んでいた。

息子の昌彦さんご夫婦とお店を切り盛りする。店番はトキさんの役目。そろばんと電卓で計算しており、お釣りを間違えたこともないとのこと。店内には以前使われていた酒造りの道具も置かれている。白くきれいな蔵も見事で、写真を撮っていく人もいるという。長生きで元気の秘訣は何でも食べることで、歴史ある老舗で私たちの取材に笑顔でこたえてくれたトキさんに、この場を借りて感謝申し上げます。(山浦)



丁寧に作られた折鶴



酒造りで使われた道具



白く綺麗な蔵

あおきむらカフェ開催～村の味をカフェスタイルで伝える～

6月29日上田市中央のレンタルスペース CAMP(キャンプ)にて行われた、青木村発信企画として1日限定のあおきむらカフェ。このカフェでは村の特産品、村のブランドを使った料理を提供。和菓子やメンバー手作りのもんぺも販売しました。

アオキノコちゃんとの写真撮影も人気。約30名という大勢のお客様に来ていただきました。料理で人気だったのは、「冷製杜仲蕎麦ナポリタン風」と、信州そばーむとコンパラジャムを使った「そばーむパフェ」でした。

他にも青木村産のジュース、お茶の飲み物、おやきなども。村の食材を食べ、時報で村の歴史や今を感じ村民とふれあう、村の良さを凝縮したカフェになりました。カフェをきっかけに村の美味しいものや青木に関心を持ち、訪れてくれる人が増えたらとても嬉しいです。

この企画に協力して下さった皆様、当日来て下さった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。(那月)



賑わう店内



そばーむパフェ



冷製杜仲蕎麦ナポリタン風



村内で作られた綺麗なダリア

地区さんぽ ～歩いて魅力を発見～ #2「夫神区」

12の地区を実際に歩いてみようというコーナー。今回は夫神区。

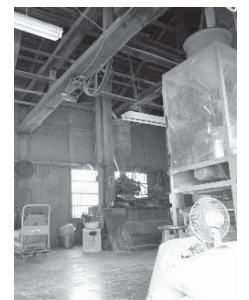
まず感じたのは相当に傾斜があるという印象だった。夫神山の麓で、日が半日しか当たらないと言われてもいる。田んぼは下の道路沿いに面していて、家屋は田んぼより上に造られていた。暑い日だったが風の吹き上げがあり、涼しくて気持ちが良い。

小林喜明区長にお会いして話を伺った。約82世帯が暮らしていて、最近は見晴らしの良い高い地区に住居を建てる方も増えているという。地区の自慢は、やはり「義民」。宝暦11年(1761年)、上田藩の圧政に対し大きな騒動が起きた。藩に要望が通り農民たちは救われたが、夫神村の首謀者、清水半平氏と中沢浅之丞氏が、3月2日に千曲川河畔で処刑された。今も義民祭があり、義民の心を今に伝えるものとして、地区で大切にしている。

十二公園のことも聞いた。もともとは十二の森という森があった場所だ。隣には昭和22年(1947年)に造られた共同作業所が立つ。精米や製粉をする作業所。当時建てられたであろう古い建物に、各種の製粉機が置かれている。特に昨年、大きな石臼で製粉ができる最新の製粉機も導入されたそうだ。そして夫神といえば夫神山。登山道の整備、草刈り、枝落とし等の作業も行なっており、登山客も増えているという。また、まるベリーオートキャンプ場や義民蕎麦なども人気。昔から郷土愛を持って、地域は自分たちで守ると



公民館と夫神山



共同作業所内

いう自衛の意識が強いとお聞きした。大雪の際にも斜面が多いため、地区の皆で生活道を確保するなど協力し合ったという。厳しい自然条件や義民の歴史などから、地域民の一体感のある地区だなど、散歩をして実感した。(U)

熱 烈 コ ラ ム

なから

土の恵み、雑草との戦い

今年は、エルニーニョ現象の可能性が高いと、気象庁が発表しました。

発生の際は、台風・長雨・低温…と自然災害が発生し易く、農作物の不作、高値と、冷や冷やしています。

以前から畑に興味があり、今年から自宅前の畑で、家庭菜園を始めました。まだまだ、知らないことばかりで、農業従事者の知り合いや、ご近所さんから聞きながら、育てています。

「トマト」「ナス」「ジャガイモ」「サツマイモ」「トウモロコシ」

「キャベツ」「アスパラガス」「シソ」「モロヘイヤ」そして「メロン」

実家から頂いた苗も植えていたら、種類がたくさん。

トマトの成長は早く、グングンと空に向かって伸びており、トマトの実も大きくなってきました。お日さまパワーで野菜が成長してくれることを祈るばかりですが、無事に収穫できることを願い、楽しみにしています。

それにしても、雑草パワーはすごい。すごすぎる。夫婦共働きであるので、日曜日が主になりますが、時間を見つけ、草むしりをして、追いつかない。野菜の周りは出来ても、畑全体の草むしりは手が廻らない。

みなさんはどうしているのだろう？みなさんの知恵を貸してください。

MaS

ひとりごと...



だいじょうず
大丈夫

人にはそれぞれ好きな**コトバ**があると思います。

私にも**スキ**な**コトバ**があります。そんな**コトバ**について...

♡感謝♡ ありがとう。かみしめる。など...
♡感謝♡ 感じて謝まる。

♡大変♡ 大きく変わる。だから大変なのです。

♡わがまま♡ あまりイイ意味でないようだが...
♡わがまま♡ 我がまま。ありのままがいい。そんな風に思う私です。

♡百姓♡ 農家って**コト**ですが...**百**の商売ができる人!!

ひやくしやう 一人な人になりたいです。今はまだ**百文** (ひやくしやう) ですが...

ちょっとした**コトバ**に目を向けてみるのはどうでしょう？

字もうまく、デザイン的なものも書けるようになりたいなあ...

と思う、**堀内**の**ひとりごと**♡でした。次回もおたのしみに

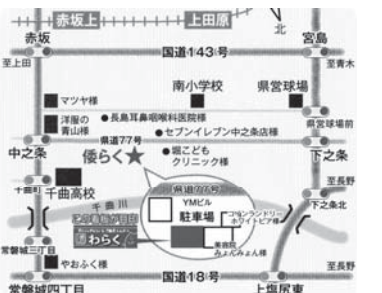
この**コトバ**は**私**が
大好きな**コトバ**♡
自分はまだまだ出来る!!と
思える**コトバ**♡



御馳走とんかつ**優らく**
(ダイニングカフェ Waraku)

上田市中之条 744-1

☎0268-23-8322 営業 10:00 ~ 16:00 (L.O 15:00)
時間 17:00 ~ 22:00 (L.O 21:00)
定休日: 毎週火曜日



スナックぶーけ



営業時間 : 18時~24時 (不定休)
住所 : 青木村田沢 3298-1
電話番号 : 0268-49-1187
カラオケ無料。セット料金で2,000円~。おつまみ3品がついてくるので2次会にもぴったり。笑顔の素敵なママが出迎えてくれる。

編集部員の

あなただけの唄♪

ある歌番組で、ミリオンヒットを数々生み出した女性シンガーソングライターが出演していた。曲間のトーク時間に、司会者の男性が質問した。「ヒットソングが何曲もありますが、一番自身の生き方を表わしている曲はどれですか」。女性は、少しムツとした表情で答えた。「私はプロのエンターテイナーです。社会が今求めているメッセージを歌にしています。自分がどうということではありません」。

エンターテインメントとは大衆に対して表現し、その大きなニーズに応える偉大な作業だと改めて考えさせられた。同時にひとつの記憶が蘇った。

学生時代、覚えたてのギターを片手に仲間と駅前で唄っていた。路上ミュージシャンを気取って、オリジナル曲を作って歌っていた。亡くなった祖母との思い出を綴った曲を唄っていた時、ひとりの女性が足を止めて聞いてくれた。「私も同じ経験をしました、本当に共感しました」。涙を流しながら、堅い握手を交わしてくれた。

大衆の心を掴むプロのエンターテイナーと、たったひとりのお客さんの共感を得た路上ミュージシャン。社会的な評価を受けるのは前者、だがどちらがすごいのか、それは本当は比べることができないのではないか。

たったひとりでも共感が生まれ、笑顔が生まれるのであれば、唄い続けることに意義があるのではないかと思う。(山唄)



Team 泥百笑

私たち編集部員のイラストを、雪童（ゆきわらし）さんに描いてもらいました！

平成青木時報編集部 青木村夏祭り初参加！

私たちの踊り連に参加希望の方はご連絡ください。

このコーナーでお店の広告や、〇〇募集！などのお知らせを掲載しませんか？

- ・1 枠(5cm×09cm)…3,000 円
- ・2 枠(5cm×18cm)…5,000 円

村内に全戸配布され、公共施設や上田市にも数か所に置かれるため、宣伝効果も大きいです。詳しくは編集部までお問い合わせください。

神楽殿サウンドフェス 2014 夏～回り舞台の鼓動～ 開催決定！

昨年度に引き続き、杓掛区宮淵神社境内にて神楽殿サウンドフェスを開催します。出演者は回り舞台を使い、迫力あるパフォーマンスを披露してくれます。江戸時代に建立された舞台に息吹を吹き込み、歴史の鼓動を体感ください。

- 日 時 9月21日(日) 午後1時～午後4時
 - 会 場 青木村杓掛区宮淵神社
 - 出演者 青木村義民太鼓保存会、青木小金管バンド 他
 - 主 催 平成青木時報編集部
 - 後 援 青木村、青木村教育委員会
 - 協 力 杓掛区、リフレッシュパークあおき
- 出演者も募集しています！



編集部からのお知らせ

信州合体ナガノイザー 4コマまんが
原作&メカ・背景…カムイコウジ氏 キャラクター…神北みゆき氏

各メカデザイン



平成青木時報は、大正時代から昭和に村の青年会が発刊していた青木時報の名前を借り、村の魅力や情報を発信するため、青年グループ「泥百笑(どろひやくしょう)」が、平成26年度長野県地域発元気づくり支援金を活用し制作しています。

前号の記事に「弘法大使」と記載してしまいましたが、正しくは「弘法大師」です。また三頭獅子の読み仮名は正しくは「みかしらじし」です。訂正してお詫びいたします。

青木を盛り上げたい！何か面白いことしてみたい！という方お気軽にご連絡ください。次回は10月1日の発刊となります。また、ご意見ご感想や投稿などもお待ちしております。

ご意見・ご感想お待ちしております。 平成青木時報編集部 代表 山浦和徳
 電話：090-2308-8270 メール：aokijiho@gmail.com
 ホームページ：<http://doro100sho.jimdo.com/>
 Facebook：<https://www.facebook.com/aokijiho> Twitter：[@aokijiho](https://twitter.com/aokijiho)